

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立高野小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
<b>学びのサイクル(津山モデル)</b> ①授業改善 ②つまづき解消 ③家庭学習と授業をつなぐ ④補充学習	①研究部・各担任 ②各担任 ③研究部・学力向上 ④学力向上・各担任	①説明文の教材研究と実践報告、算数授業をビデオ研究 ②正解率が低い学テの問題を分析して対策を検討する。 ③宿題の出し方、提出率チェック ④学テから苦手問題に取り組み、解説まで行う。	①夏休み・2学期 ②9月中 ③毎学期 ④年間8回(クラブ・委員会・行事のない金曜日)	①校内研修で研究部から提案する形で実施する。 ②校内研修で学力向上担当から提案する形で学テ分析として行う。 ③授業で学習したことを宿題で復習できるようにする。宿題提出率を各クラスで調べ、結果と良い取組を通信で紹介する。 ④4～6学年を対象に少人数指導として行う。学テ分析から苦手な問題を抽出して取組ませ、解説まで行う。指導のポイントはあらかじめ共有しておく。	①1単位時間内で習熟まで行い、学習が定着する。 ②苦手分野の問題が正解できる。(達成率100%) ③学校で学習したことが確実に定着する。 ④苦手問題の考え方・答え方が分かる。(達成率100%)
<b>生活習慣の改善</b>  スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①研究部・各担任 ②各学年団	①家庭学習時間調査 ②中高学年を対象にスマホに関する出前授業の実施	①毎学期 ②2～3学期	①研究部からの提案で、1週間調査を実施し結果を集計する。結果から宿題の内容や量を調節する。 ②学年PTAとして専門機関にお願いで親子で学習する。	①既定の家庭学習時間が達成できる。(100%) ②スマホの安全な使い方を知ることができる。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】 全国学テ(6年)	【学習状況調査の結果】
○国語は県平均より若干低く、算数は県平均より5点ほど低い。 ○算数では記述式の問題の正解率が低く、参考例に従って計算の仕方を説明したり、グラフから読み取ったことを説明したりすることに課題がある。 ○国語では「読むこと」は県平均を上回っている。その他の領域は県平均に比べて少し下回っているが、全体の正答率は県平均にあと1ポイントと迫っている。しかし、算数と同様に記述式の問題の正解率が低く、特に、条件のある文章を書くことに課題がある。 県学テ(3年～5年) ○県平均と比較すると国語は上回っている学年の方が多いが、算数は下回っている学年の方が多い。 ○算数では、基礎問題に比べて活用問題の標準偏差の方が低く、活用性に課題がある。 ○4年と5年の算数では全体的に県平均を下回っていることから、学習の習熟度がやや低いことが分かる。 ○算数では「はこの形(3年)」「本校43%(県46%)」「時ごとと時間(4年)」「本校67%(県78%)」「折れ線グラフと表(5年)」本校30%(県34%)に課題がある。 ○国語では、学年によって差はあるものの、領域「読むこと」、観点「書く能力」に課題がある。しかし、「漢字を読む・書く」はどの学年も県平均を上回っている。	○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が85.9%であり、県平均(72.1%)に比べて非常に高い。 ○全く家庭学習をしない割合が0%であり、家庭学習は定着している。 ○「自分にはよいところがある」と思っている児童は45.1%で、県平均41.6%に比べ高い数値となっているが、「まったく当てはまらない」と思っている児童が8.5%で、県平均4.8%に比べ高い数値となっている。 ○平日にメディアを利用する時間が2時間以内の児童の割合は43%程度で、半数以上の児童は2時間以上メディアを利用している。 ○「読書は好きだ」という項目に肯定的な児童が県平均と同じ77%となっている。しかし、平日に読書を全くしない児童は26.8%で、県平均の17.4%より高い数値となっている。 ○算数の学習において、「解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「もっと簡単に解く方法はないか考える」「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」の項目が県平均と比べて数値が低く、学力テストの結果との相関関係が考えられる。 ○「将来の夢や目標を持っていますか」の項目が県平均と比べて数値が低く、キャリア教育によって学ぶ意欲を高め、自ら生きる力を発見していく学習を進めていくことが大切だと考えられる。

成果	課題
○家庭学習時間(10分×学年+10分)の達成率は全学年平均が85%となり、昨年度より上昇した。 家庭学習は「宿題+自主学習」の定着が図られてきている。 ○全国学テの無回答率は国語が2.6%(県5.6%)、算数が0.8%(県2.8%)と県平均と比較してもかなり良い結果であった。 粘り強く問題に取り組みとうする姿勢がうかがわれる。 ○校内研修では国語の説明文に絞って研究を進めてきた。その結果、国語に関しては3～6学年の平均正答率は県平均と比較して0.3ポイント上回っていた。 ○毎年、全学年を対象に漢字検定受験に向けた学習に取り組んだり、新出漢字の指導を朝学習で丁寧に行ったりしたこと、3～5学年では「漢字を読む・書く」の項目で、県平均を「読む」で+1.8ポイント、「書く」で+7.1ポイント上回った。	○正答率数分布の特徴として、平均値から上にも下にも分布が広がっている。低位に分布している児童に対する手立てと指導の徹底が必要である。 ○問題形式別で見ると、記述式の問題に対する正答率が県平均に比べて低く低くなっている。条件に合わせて文章を書いたり、参考例に従って説明したりすることに課題があった。原稿用紙への文章の書き方も児童によって理解がまちまちであった。 ○算数に関しては3～6学年の平均正答率は県平均と比較して-1.9ポイント下回っていた。学習の習熟度を高めていく取組が必要である。 ○算数の活用問題や国語の条件作文等の昨年度からの課題に取り組んできたが、成果として表れていない部分もあることから、学んだことが確実に定着するまでやりきるようにしたい。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
苦手問題の解消	年間10回(2月上旬)	対象:4～6年 ・徹底的に繰り返して反復練習し、正解率90%以上目標	・補充学習として少人数指導(通常の半数)を行う。 ・苦手問題の正答率が上がるようあらかじめ教員が指導のポイントを共有しておき、その時間のうちに解説まで行う。 ・補充学習では、毎回、全員ができるまで指導し、できなかった場合は後日指導する。					
授業改善(書く活動と習熟の時間の確保)	すぐに実施(2月下旬)	対象:全学年 ①物産文や説明文の授業では必ず行う。 ②算数の授業では必ず習熟の時間を確保する。	①キーワードや文字数の条件を付けてまとめを書く。 ②授業の週末には適応題に取り組む。 ③適応題の出来をチェックし、放課後学習の個別指導と運動させる。					
家庭学習の定着と充実	毎学期(3月上旬)	対象:全学年 ①既定の家庭学習時間(100%達成) ②授業の学習が定着する宿題を出す。	①研究部が中心となって毎学期調査を行う。調査結果と対策を通信でお知らせする。 ②学年団で検討し、宿題を準備する。自主学習で取り組んだらよい内容を紹介する。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○チャームスタート・無言入場・だまってそうじを中心に、規律ある学校づくりをめざす。 ○小中間による授業公開、中学校の先生による出前授業、児童生徒の情報交換を行う。 ○中学校の定期テストに合わせ、メディアコントロール週間を設ける。	○中高学年を対象に携帯・スマホの扱い方について参観日の授業や講演会で学習する。 ○PTAと連携して、朝ご飯、メディアコントロール、家庭学習時間確保の取組を行う。